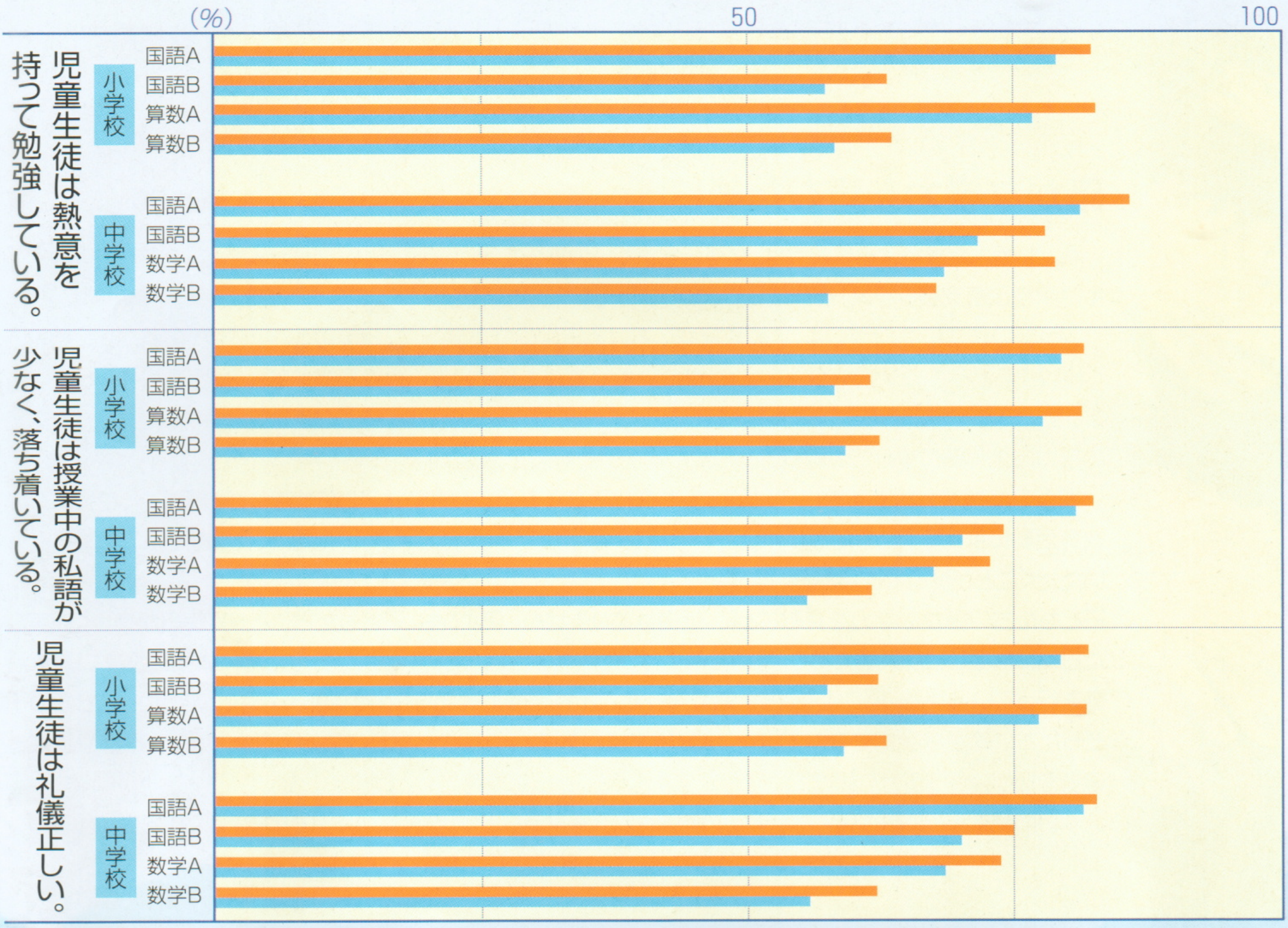
落ち着きの中にも熱意ある雰囲気作りをする

学校質問紙調査の結果とペーパーテストによる調査結果とを分析してみると、「熱意を持って勉強している」「授業中の私語が少なく、落ち着いている」「礼儀正しい」など、児童生徒の基本的な生活習慣が身に付いていると捉えている学校では、ペーパーテストの結果も高くなっていることが分かります。



「そのとおりだと思う」と回答した学校における児童生徒の平均正答率

「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」と回答した学校における児童生徒数の平均正答率

これまでも強調されてきたように、学習指導と児童生徒指導は深く関わり合っています。児童生徒一人一人を生かしつつ、学級集団、学年集団を育て、落ち着きの中にも熱意ある雰囲気作りに努めることが、確かな学力の向上のためには重要です。

本県における実施の状況

小学校(6学年)……414校　・市町立小学校　409校　18,203名　・県立特別支援学校小学部　5校　9名

中学校(3学年)……170校　・市町立中学校　164校　17,304名　・県立特別支援学校中学部　6校　10名

平均正答率
(　　)内は全国の結果

【小学校】	国語A	81.7% (81.7)	国語B	61.0% (62.0)
	算数A	81.1% (82.1)	算数B	62.1% (63.6)
【中学校】	国語A	82.7% (81.6)	国語B	74.0% (72.0)
	数学A	71.9% (71.9)	数学B	60.6% (60.6)

家庭学習の習慣を身に付けさせる

質問紙調査とペーパーテスト調査とのクロス集計結果を見ると、家庭学習をしているということとペーパーテストの結果とには相関が見られます。どちらかと言えば、学校で学習した内容の復習をしているかどうかということと正答率との関連が深いようです。家庭学習が習慣化されることは、確かな学力の向上に大きく役立ちます。

「家で学校の授業の予習（復習）をしていますか。」の質問に対し「している」「全くしていない」と回答した児童生徒の平均正答率　（%）

小学校	国語A		国語B		算数A		算数B	
	している	していない	している	していない	している	していない	している	していない
予　習	84.4	79.4	67.0	58.0	85.3	78.4	67.9	59.3
復　習	84.4	77.8	66.0	55.0	84.7	76.3	66.4	57.1

中学校	国語A		国語B		数学A		数学B	
	している	していない	している	していない	している	していない	している	していない
予　習	83.8	81.7	75.2	71.6	75.7	69.1	62.9	58.7
復　習	85.8	80.0	78.8	68.7	79.2	65.8	66.2	56.1

家庭で学習する内容は、学校の授業内容とより効果的に関連づけていくことが大切です。授業で身に付けたことを自力で解けるかどうか試してみる、授業で学習したことを他の場面にも当てはめ応用してみるなど、色々な関連が考えられます。いわゆる宿題がそのいいきっかけになりますが、毎日多くの宿題を出すことで、かえって学習が嫌いになってしまうことも考えられます。特に中学校では、教科ごとに担当教師が違いますから、一人の生徒に与える負担を調整する必要があります。宿題の量や質について、適切な在り方を探っていく必要がありそうです。

教職員が力を合わせて実態を分析する

教職員が互いに実態について情報交換し合い、より望ましい指導方法を見つけ合っていく習慣をつけることは、その学校の子どもたちの学力を向上させる基盤を作ることになります。

今回の調査結果だけでなく、普段から単元末テスト、定期テスト等の分析に皆さんで取り組みましょう。

学力を把握するため、学年末テストや学期末テストの結果の分析を行いましたか。

	は　い	いいえ
小学校	70.1% (66.7)	30.0% (33.1)
中学校	96.0% (94.0)	4.0% (5.8)

学力を把握するため、単元テストや小テストの結果の分析を行いましたか。

	は　い	いいえ
小学校	80.0% (79.4)	20.1% (20.4)
中学校	90.9% (81.5)	9.1% (18.3)

評価の観点の趣旨や評価規準等との関連から、教科によっては「この問題がおよそ解ける程度まで育てよう」とする、目安になるような問題を適切に設定する必要があります。また、テスト等の結果は評定を出すための道具としてだけ活用するのでなく、自分たちの指導に何が欠けていたのか、どんな点がよかったのか等を教職員同士が解釈し合うためにも用いることが大切です。

児童生徒の学習状況や生活状況、効果のあった指導などについても、互いに情報を交換し合う雰囲気が重要です。

家庭にはこのようなことをよびかけていきましょう

検証改善委員会では、次のようなことを、リーフレットで全保護者に提言しています。各学校でも、折に触れてよびかけていきましょう。

1　食事をきちんととらせる

朝食は、毎日必ずとらせましょう。また、夕食は、毎日は難しくても、週に数回はお子さんといっしょに話をしながら食べましょう。たまには、食事を一緒に作ったり、一緒に食器を洗ったりしながら、話をしてはいかがでしょうか。

2　生活のリズムについて見直す

余裕をもって起きることや、十分な睡眠をとることを確認した上で、学校から帰ってきてから、寝る時刻までにすることを親子で話し合ってみましょう。その際、宿題、読書、お手伝いの他に、お子さんが少しゆっくりできる時間もとれるといいでしょう。

3　自分のことは自分でできるようにする努力をさせる

人に頼らずに、自分のことは自分でできるようにすることが、独り立ちにつながります。朝、起こされるのではなく、自分の意志で起きるようになることが大きなステップになるでしょう。

4　ほめる機会を増やす

1日1回はお子さんをほめるよう心がけましょう。ほめられることで自信がつき、自己肯定感がもてるようになります。結果が満足のいくものでなくても、その過程において得られたことが大切です。

5　豊かな人間性や規範意識を身に付けさせる

学校での出来事や、話題となっている世の中の出来事などについて、自分の思いをお子さんに伝えましょう。その際、お子さんには親の考えを押しつけるだけでなく、きまりの大切さを考えさせることも大切です。

6　家庭でのコミュニケーションを大切にする

お子さんの年齢が上がるにつれ、家庭であまり話をしたがらなくなってきますが、たまには、一緒に買い物に行ったり、同じ趣味に興じたりしながら、気軽に話をしてみてはいかがでしょうか。また、学校行事に参加したり、授業参観をしたりした後には、学習した内容について自分の感想を伝えてみたりすることもよいでしょう。テレビのニュースや新聞記事などが話題になると会話が広がるかもしれません。

7　読書の習慣をつけさせる

一緒に図書館や書店に行ったり、家族で同じ本を読んだり、お薦めの本を紹介したりしてはいかがでしょうか。そうすることで、家族のコミュニケーションも深まります。

今後の取組

県教育委員会では

学校訪問で

学校訪問の際には、授業の中では、個に応じた指導によって、児童生徒一人一人が主体的に思考・判断できているか、また、集団で学習することのよさを生かし互いに伝え合いながらそれぞれの考えを練り上げているか・・・・といった視点から指導主事が助言します。

研修で

各学校における実践事例などを持ち寄り、より効果のある指導の在り方について情報交換しながら考察していきます。

調査研究で

これらの方策により、児童生徒の学習状況がどのように変容するかを、長期的に調査し、指導の成果や課題を明らかにしていきます。

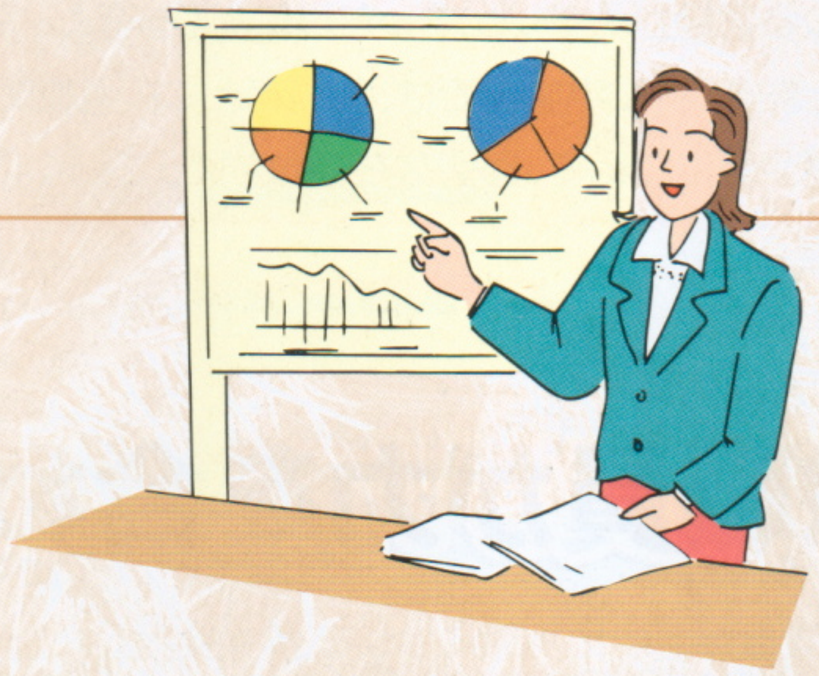
各学校では

県の方針を受けて

本リーフレット等を基に、それぞれの教育活動や指導体制の在り方について再点検をし、効果のある教育活動が展開されているかどうかを、教職員一人一人が日々評価してください。また、保護者の皆さんや地域の方々にも確かな学力を育むための取組について理解を得ていただき、自己評価等で確認しながら推進してください。

市町ごとや自校での課題を受けて

教職員が一丸となって「今、子どもたちのために何をすべきか」を考え合い、「形だけの方策になっていないか」「求めるものは育っているのか」を研修等で検証し合ってください。



栃木県検証改善委員会

委員長	松本　敏	宇都宮大学教育学部教授
委員	木村　寛	宇都宮大学教育学部教授
委員	香西秀信	宇都宮大学教育学部教授
委員	綱川芳孝	栃木県小学校教育研究会国語部会副部会長（宇都宮市立上河内中央小学校長）
委員	星　成雄	栃木県小学校教育研究会算数部会副部会長（上三川町立北小学校長）
委員	古内　正	栃木県中学校教育研究会国語部会長（真岡市立山前中学校長）
委員	江面一雄	栃木県中学校教育研究会数学部会長（宇都宮市立河内中学校長）
委員	若度哲久	栃木県PTA連合会副会長
委員	若林由美子	栃木県PTA連合会常任理事
委員	金井　正	栃木県総合教育センター研修部長
副委員長	江部信夫	栃木県総合教育センター研究調査部長
委員	宇田貞夫	栃木県教育委員会事務局学校教育課長
委員	佐藤　仁	栃木県教育委員会事務局学校教育課主幹

事務局　栃木県教育委員会事務局学校教育課小中学校教育担当